

## ディアウォール Q&A

Q1. カーペットの上に設置はできますか？

A1. カーペットの上に設置した場合、ディアウォールの下パッドが沈み込み突っ張る力が弱まると同時にカーペットがずれた際転倒する恐れがあります。  
ご使用はお控え頂きますようお願いいたします。

Q2. 畳の上に設置はできますか？

A2. 畳の上に設置した場合、ディアウォールの下パッドが沈み込み突っ張る力が弱まる恐れと、天井部分が和天井の時に天井板が持ち上がり突っ張らせることが出来ない恐れがあります。対策としては沈み込みにくいよう荷重の大きさに応じて広めの板を滑らないよう設置し、その間で突っ張らせることである程度突っ張る力を保つことができます。天井や畳の状態をご確認のうえご使用可能か慎重にご判断ください。

Q3. クッションフロアの上に設置はできますか？

A3. クッションフロアの上に設置した場合、ディアウォールの下パッドが沈み込み突っ張る力が弱まる恐れがあります。付属の専用スペーサーを下パッドに挿入し突っ張る力を強めるか、荷重の大きさに応じて広めの板を滑らないよう置き、その上に設置することをお勧めします。

Q4. ディアウォールを突っ張り棒のように水平に使用できますか？

A4. 壁と壁の間で水平に突っ張らせることはできません。必ず上下で垂直に突っ張らせてください。水平にツーバイフォー材を取り付けたい場合は、垂直に設置した 2 本のディアウォールの上に直接ねじや金具で取り付けるという方法があります。

Q5. ディアウォールを廊下に数本突っ張らせて手すりを取り付けたいのですが？

A5. 手すりの取り付けには使用できません。手すりは下方向への重さだけでなく横方向へ引っ張る力も大きくかかりますので、必ず壁面の固定された下地に確実に取り付けてください。

Q6. ツーバイフォー材を少し短く切り過ぎてしまい突っ張らせてもぐらつきがあります。ぐらつきを解消することは可能ですか？

A6. 4mm までの調整は付属のスペーサーを下パッドに挿入することでぐらつきを解消できます。さらにスペーサーを必要とする場合は、ツーバイフォー材を薄くカットしたものや代わりになる固い板を下パッドに挿入し突っ張り具合を調整できます。その際天井に力がかかり過ぎ天井材を破損することがないようにご注意ください。

Q7. 壁際から離れた場所への設置、例えば複数本を突っ張らせて間仕切り壁に使用できますか？

A7. 壁際の天井から離れての設置は下地がない個所も多くしっかり突っ張らせることが不可能な為ご使用できません。明らかに下地があるとわかるような梁（はり）が通っている箇所以外のご使用は危険ですのでおやめください。

Q8. ディアウォールを家具転倒防止器具として使用できますか？

A8. ご使用できません。ディアウォールには耐震用の突っ張り機能はございませんので、絶対に耐震用を含む家具転倒防止器具としてご使用にならないでください。

Q9. ディアウォールを長期間使用後、取り外した時に天井や床にくぼみ跡は残りますか？

A9. 天井に適正な寸法で突っ張らせた状態であれば基本的にくぼみ跡は残りません。しかしながら天井材が柔らかければ多少くぼむことも考えられますので、床材共々施工前に設置位置の状況をご確認ください。なおディアウォールの接地面には傷つき防止を兼ねた色移りにくい滑り止めシートが付いております。

Q10. ディアウォールはどのくらいの荷重に耐えられますか？

A10. ディアウォールの耐荷重は天井・床の状態、取り付ける金具・フック・ねじの強度により大きく左右されます。また取り付ける棚板の奥行きやフックの出幅が長ければ長いほど重さに応じて「てこ」の原理が働くことで前方に倒れようとする力が強くなります。

天井が石膏ボードとコンクリートでは、コンクリートの方が強く突っ張らせることが可能となります。参考値としてコンクリートの天井で実施した社内試験では、30kgのおもりを長期間吊り下げた試験で倒れることはありませんでした。

様々な環境条件により耐荷重が異なります。安全を保障するものではありませんので、ご自身で確認しながらの設置をお願いいたします。

- Q11. 使用方法に天井の高さから **45mm** 短くカットしたツーバイフォー材を用意しますが、出来るだけ強く突っ張らせるためにもう少し長めのツーバイフォー材を使用してもよいでしょうか？
- A11. **45mm** カットしてください。設置後にぐらつきが大きい場合は付属のスペーサーをご利用ください。天井の状態によっては強く突っ張り過ぎるとへこみが発生するなどの恐れがありますので、状態を確認しながらスペーサーで調整してください。